

【JP 地域共存ビジネス賞 募集要項】

「地域に根ざした環境保全事業」および「地域既存の生物との共存を意識した事業」の2つの要素を併せ持ち、「地域共存」を打ち出すことにより、商品・サービスに付加価値をつけて地域に貢献している企業・団体を対象とします。

受賞事業に関しては、今後の事業拡大のためにJPグループのチャネルを活用することも視野に入れ支援します。

< 2009 年度「JP 地域共存ビジネス賞」受賞モデル >

受賞企業

有限会社仲田種苗園（代表取締役 仲田 茂司氏）
福島県石川郡石川町大字中野寺内 15-5

受賞テーマ

地域性種子を活用した都市の生物多様性の復元

ビジネスモデル概要

日本の里山では、一山でおよそ 50 種の樹木と 100 種の野草類を見つけることができ、これら豊富な自生植物による多様（彩）美が日本の美しさでした。

しかしながら、開発や外来害虫、帰化植物等の被圧により、身近な植物すら年々少なくなっている状況となっています。

有限会社仲田種苗園は、40 年近く前から、植物在来種の保存と繁殖に努め、生態系の維持や再生を意識した「野の花マット」などの植生マット商品を展開し、主に都市部への導入により、環境の改善に寄与してきました。

具体的には、「生物多様性保全のための国土区分（環境省）」第 3 区に区分される、武蔵野を中心とする関東から東北の地域に植生する花野草が、四季ごとに咲くよう寄せ植えした植生マット「野の花マット」を開発。この「野の花マット」が、都市部における屋上緑化や小学校の校庭、公園等に導入展開されています。

「野の花マット」は、通気性のよい遮根シートと有孔構造のトレー容器を用いた植生ブロックマットで、取り扱いに優れ、植物を傷めることなく根を固める等の技術に優位性があり、特許も取得しています。

また、この在来種にこだわる姿勢は、地元石川町のまちづくり計画にも取り入れられ、里山の保全など石川町の自然を活かした「人・森・土をつくるプロジェクト」で、町全体の活性化を目指すなど、地域に根ざした取組も展開されています。

【生物多様性保全のための国土区分】



【野の花マット】

左図の区分における、第 3 区に植生する花野草を寄せ植えした植生マット



【「野の花マット」の竣工例】

（東京・大崎「世界貿易センタービル・シンクパーク」）

